

第三章

金ヶ崎町 人口ビジョン

I 金ヶ崎町の人口の現状

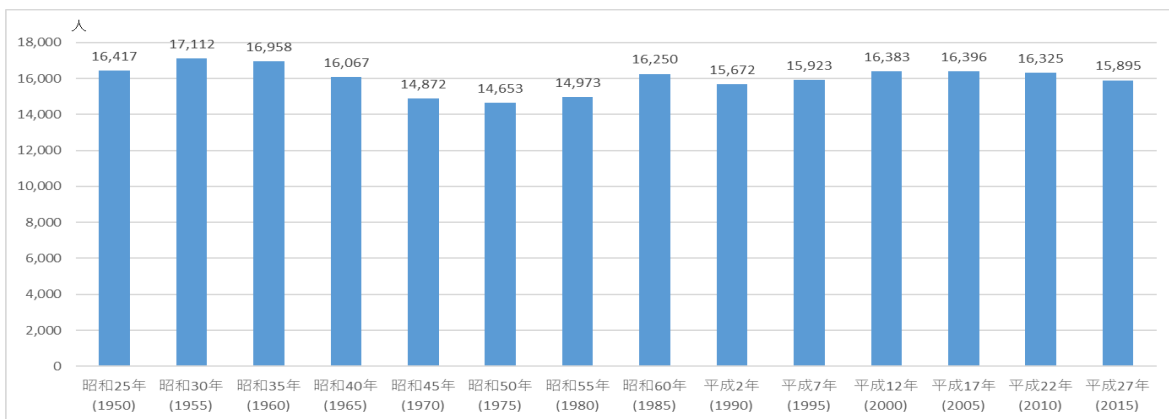
1 人口推移

(1) 総人口の推移

当町の人口は、昭和30年（1955年）の17,112人をピークに、昭和50年（1975年）まで減少が続いていましたが、昭和55年（1980年）に富士通株式会社の半導体工場や塩野義製薬株式会社の工場が操業開始となり、雇用の場が生まれた結果、人口が増加へと転じました。

平成5年（1993年）には、関東自動車工業株式会社（現：トヨタ自動車東日本株式会社）が操業を開始し、雇用の下支えとなり、その後の人口増加へとつながっています。

しかし、全国的な少子高齢化に伴う人口減少と同様に、平成17年（2005年）以降、当町においても減少が続いています。

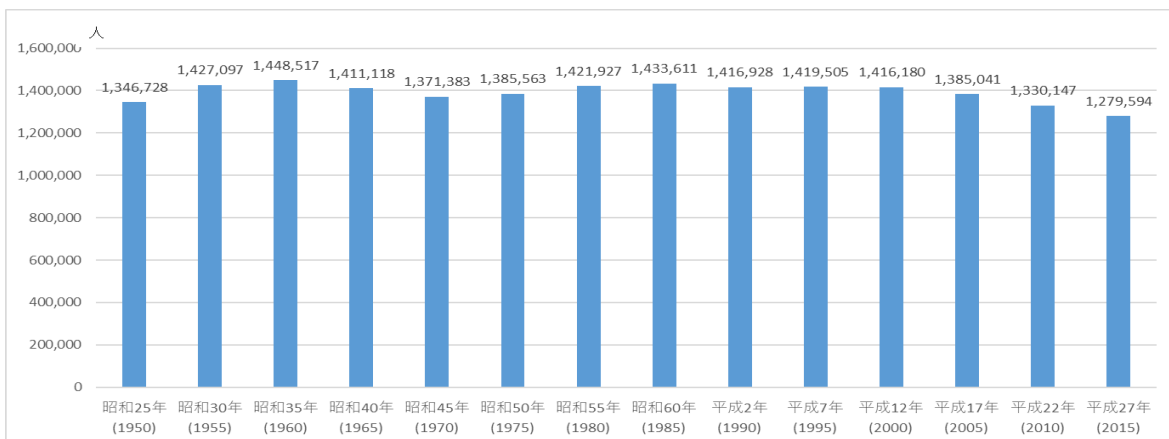


出典：国勢調査

図1 金ヶ崎町の人口推移

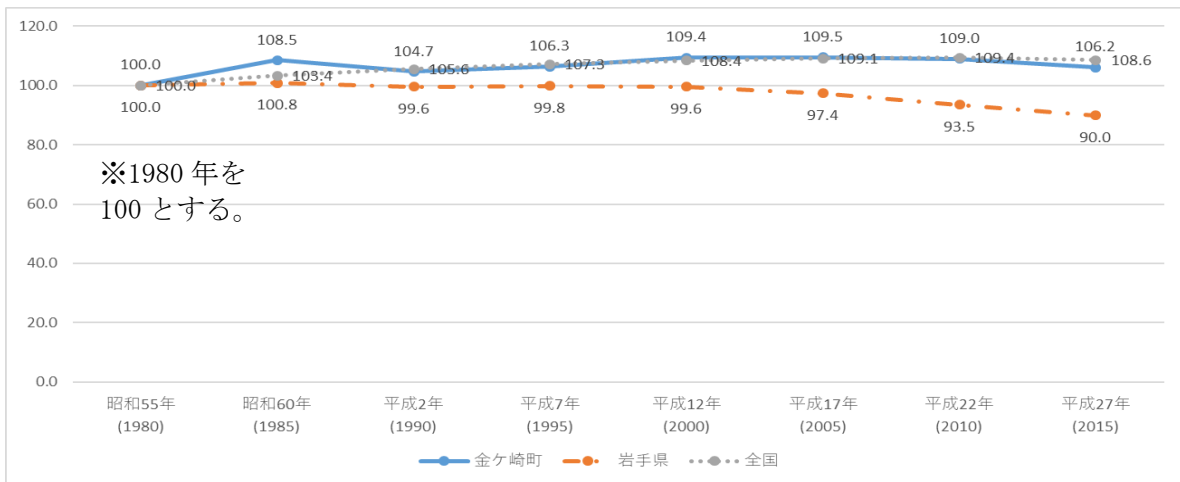
岩手県全体では、昭和45年（1970年）に開催された岩手国体を契機として、道路網の整備が進み、内陸への工場立地が促進されたことから、地元で雇用の場が創出され、人口流出に歯止めがかかり人口増へと転じました。

その後、昭和60年（1985年）をピークに減少傾向が続いています。



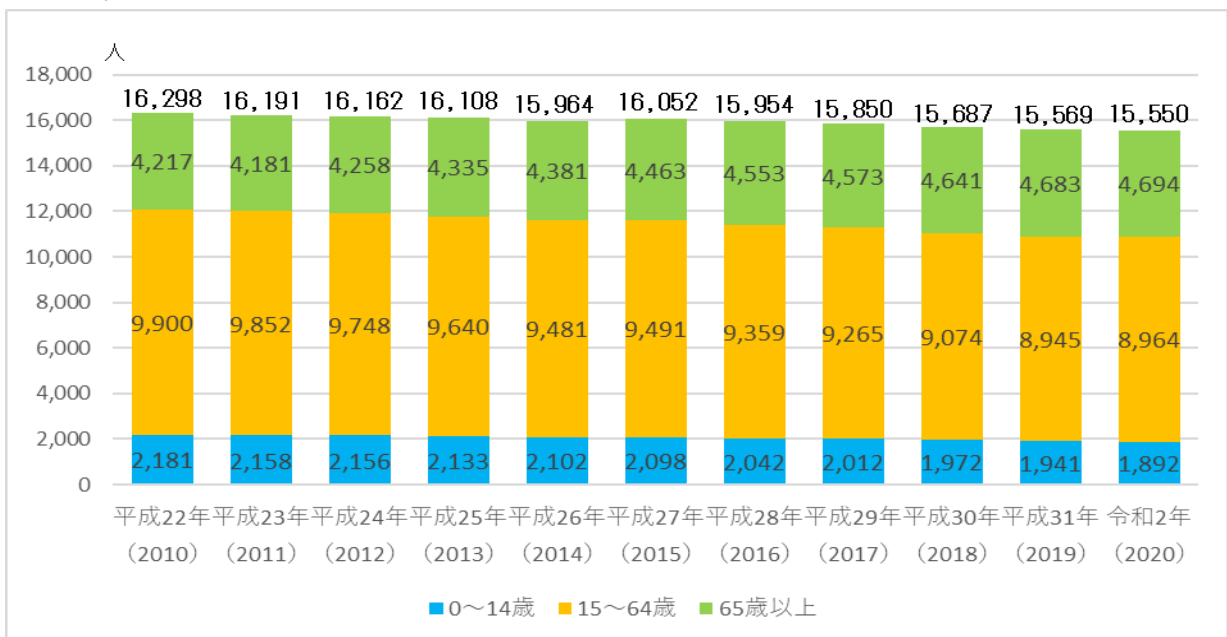
出典：国勢調査

図2 岩手県の人口推移



出典：国勢調査 図3 全国・岩手県・金ヶ崎町の人口推移

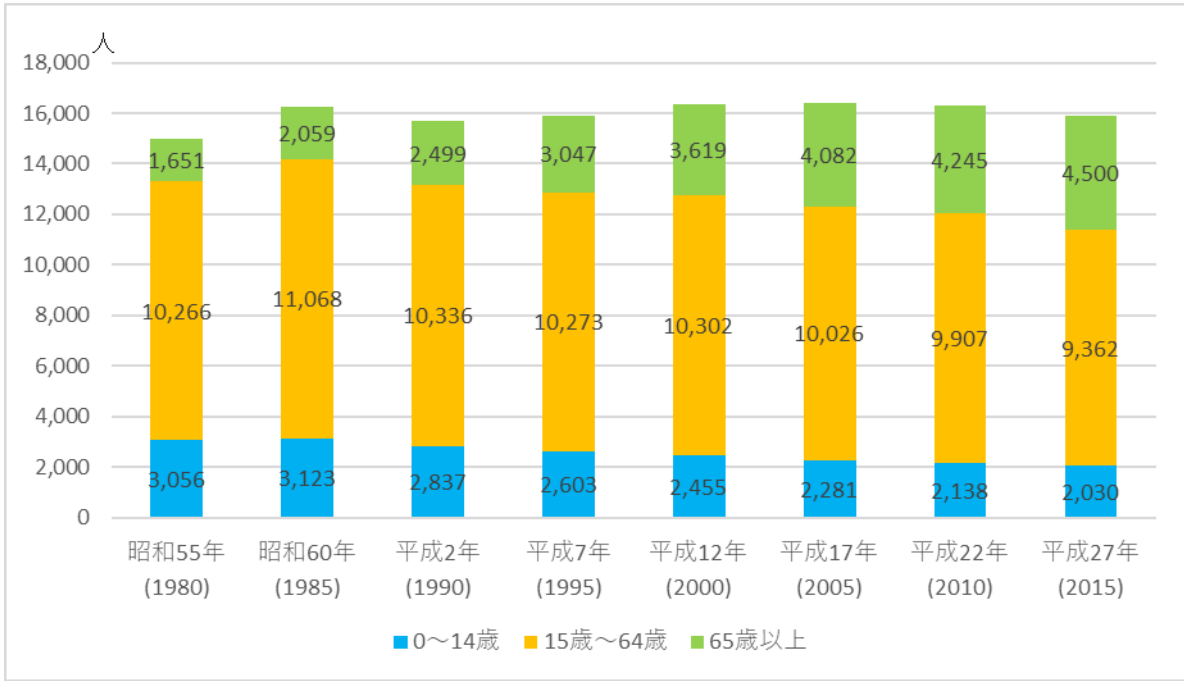
令和2年（2020年）の国勢調査結果の公表が令和3年（2021年）6月になる見込みです。参考として、住民基本台帳による毎年度の人口を見ると、令和2年（2020年）は、5年前から502人減少、10年前から748人減少しています。



出典：住民基本台帳 図4 金ヶ崎町の人口推移
(各年3月末現在)

(2) 年齢3区分別人口

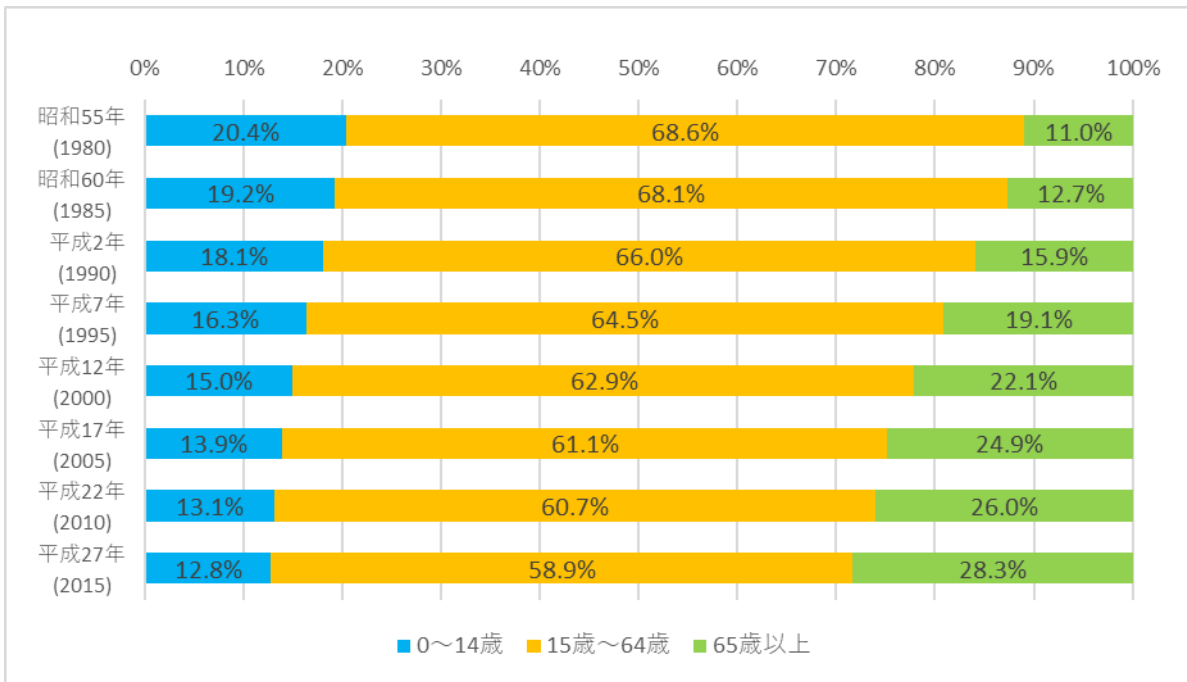
0～14歳人口は年々減少しており、当町においても少子化が進んでいます。また、15～64歳人口も昭和60年（1985年）をピークに減少傾向です。その一方で、65歳以上人口は年々増加しており、平成27年（2015年）は昭和55年（1980年）の約3倍に増加しています。



出典：国勢調査

図5 年齢3区分別人口推移

また、年齢別構成は、65歳以上人口の割合が年々増加しており、平成27年（2015）には28.3%と20年前から約10ポイント増加しています。



出典：国勢調査

図6 年齢3区分別構成比推移

2 自然動態の状況

(1) 金ケ崎町の状況

平成13年（2001年）以降は自然減が続いていて、令和元年（2019年）には、125人の自然減となっています。

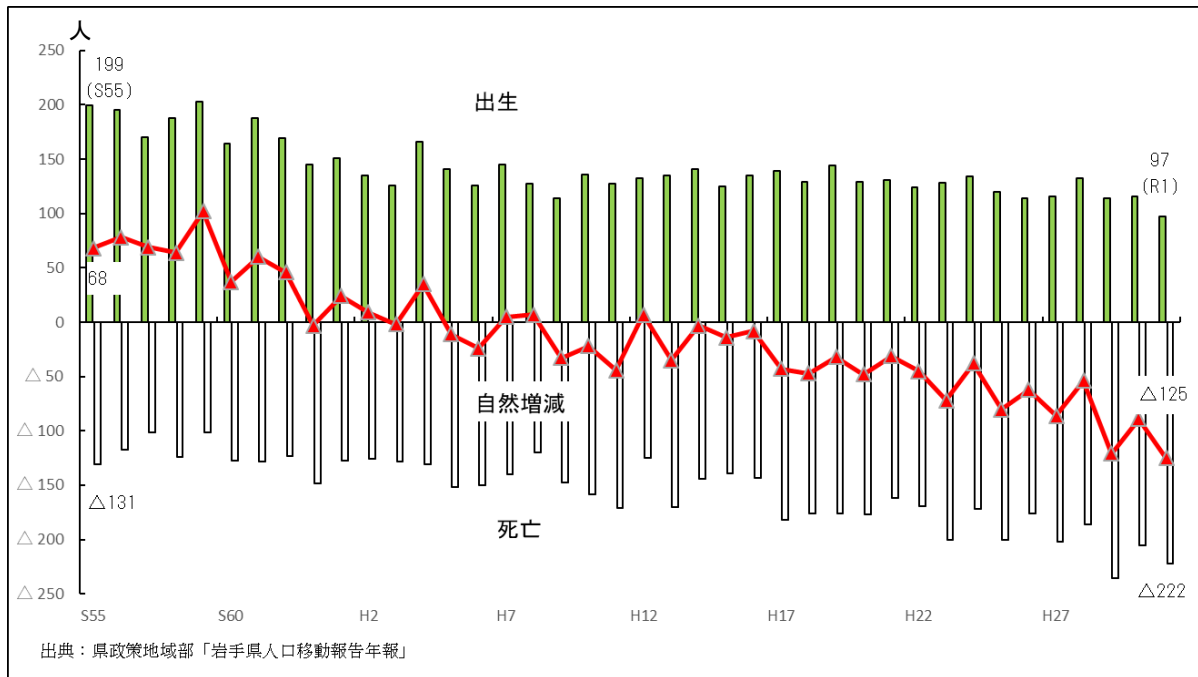


図7 自然動態（金ケ崎町）

(2) 岩手県の状況

岩手県においては、ほぼ直線的に減少しています。

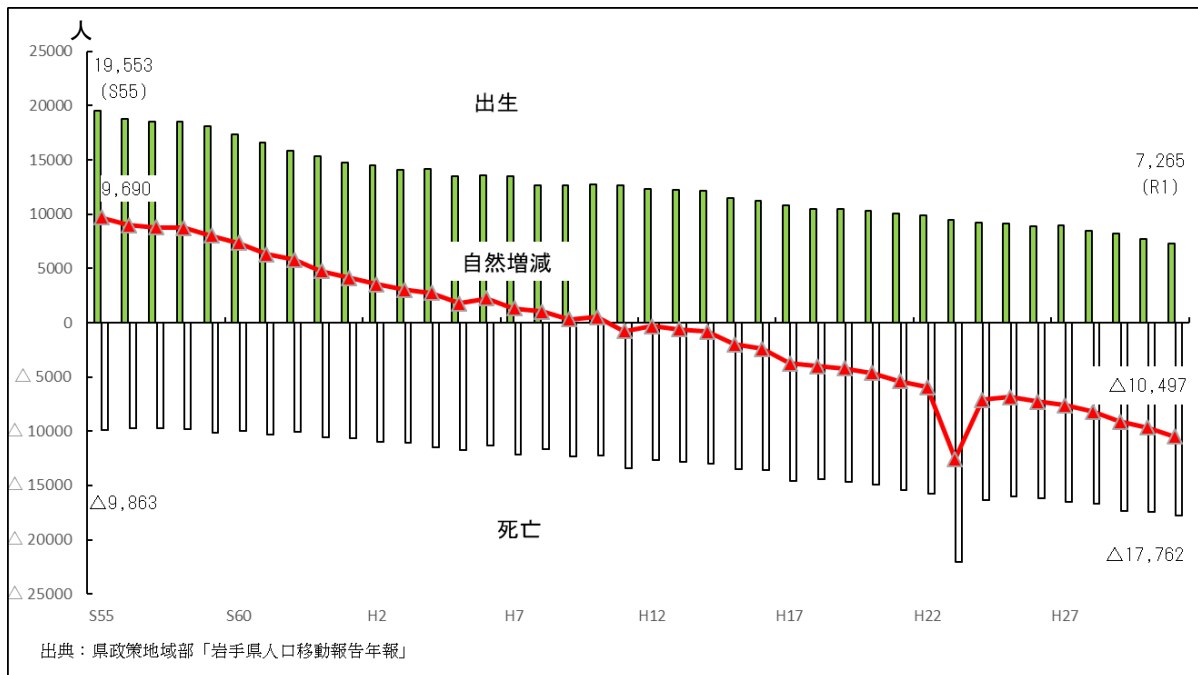
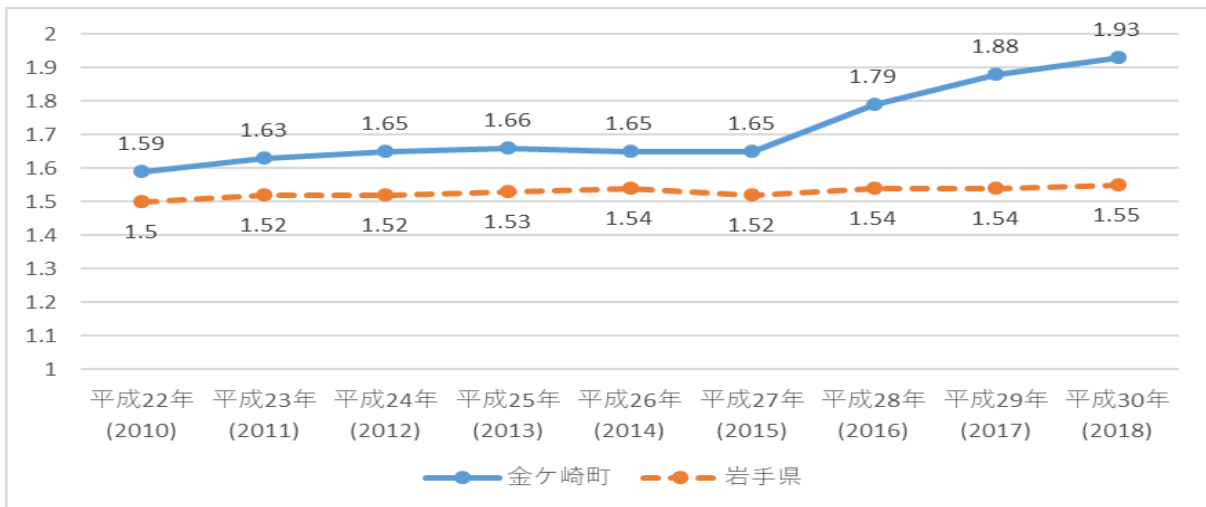


図8 自然動態（岩手県）

(3) 合計特殊出生率

合計特殊出生率は、岩手県に比べて高い水準を保っています。
 なお、率は過去5年間の平均値となっています。



出典：岩手県保健福祉年報 図9 合計特殊出生率の推移

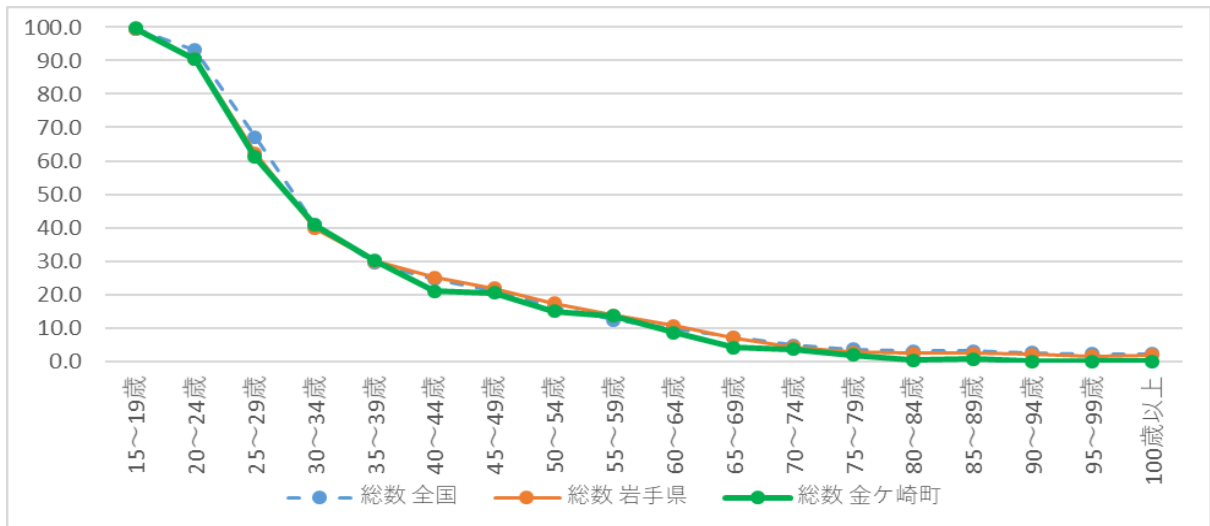
(4) 未婚率

未婚率は全国及び岩手県と比べて低くなっていますが、男女別にみると、女性の未婚率は低く、男性は高くなっています。特に35歳～39歳、55歳～59歳の未婚率が高くなっています。

表1 未婚率 (単位：%)

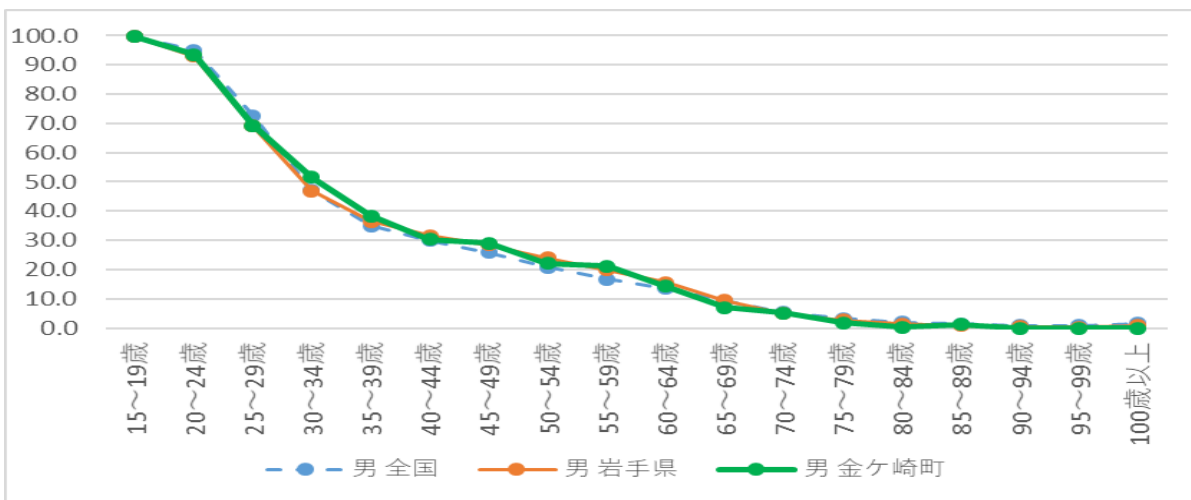
	総数			男			女		
	全国	岩手県	金ヶ崎町	全国	岩手県	金ヶ崎町	全国	岩手県	金ヶ崎町
総数 (15歳以上年齢)	27.3	24.5	24.0	31.8	30.0	31.6	23.2	19.4	16.4
15～19歳	99.6	99.6	99.7	99.7	99.7	99.8	99.4	99.5	99.7
20～24歳	93.2	90.7	90.3	95.0	92.9	93.5	91.4	88.4	86.4
25～29歳	67.1	62.3	61.1	72.7	69.0	69.3	61.3	55.3	50.8
30～34歳	40.9	39.7	40.8	47.1	46.9	51.5	34.6	32.4	29.0
35～39歳	29.5	29.9	30.1	35.0	36.5	38.3	23.9	23.0	20.9
40～44歳	24.6	25.1	20.9	30.0	31.5	30.3	19.3	18.3	9.1
45～49歳	21.0	21.9	20.5	25.9	28.4	28.9	16.1	15.3	10.9
50～54歳	16.4	17.4	14.9	20.9	23.9	22.2	12.0	10.8	6.7
55～59歳	12.4	13.7	13.6	16.7	19.8	21.2	8.3	7.6	5.7
60～64歳	9.8	10.6	8.7	13.6	15.5	14.4	6.2	5.7	2.6
65～69歳	7.2	7.0	4.1	9.3	9.4	7.0	5.3	4.8	1.1
70～74歳	4.8	4.3	3.6	5.3	5.0	5.1	4.3	3.7	2.3
75～79歳	3.6	2.8	1.8	3.2	2.7	1.7	3.9	2.9	1.9
80～84歳	3.1	2.4	0.4	2.0	1.4	0.3	3.9	3.0	0.4
85～89歳	3.1	2.3	0.7	1.4	0.8	1.1	3.9	3.0	0.5
90～94歳	2.6	2.1	0.0	0.9	0.5	0.0	3.2	2.6	0.0
95～99歳	2.2	1.4	0.0	0.8	0.2	0.0	2.4	1.7	0.0
100歳以上	2.2	1.8	0.0	1.6	0.9	0.0	2.3	2.0	0.0

出典：国勢調査 (2015)



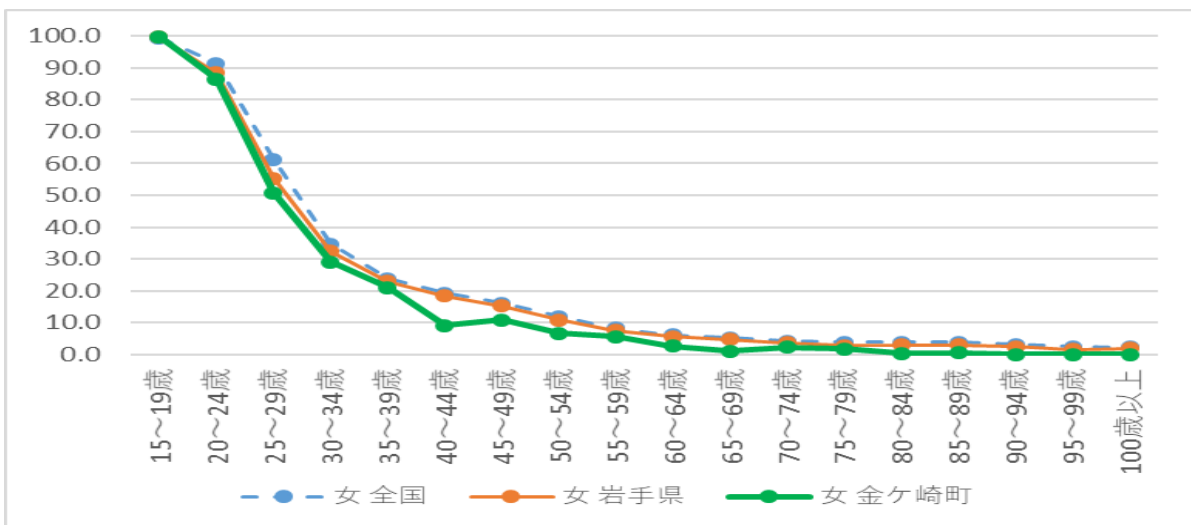
出典：国勢調査

図10 未婚率（男女計）



出典：国勢調査

図11 未婚率（男性）



出典：国勢調査

図12 未婚率（女性）

(5) 有配偶率

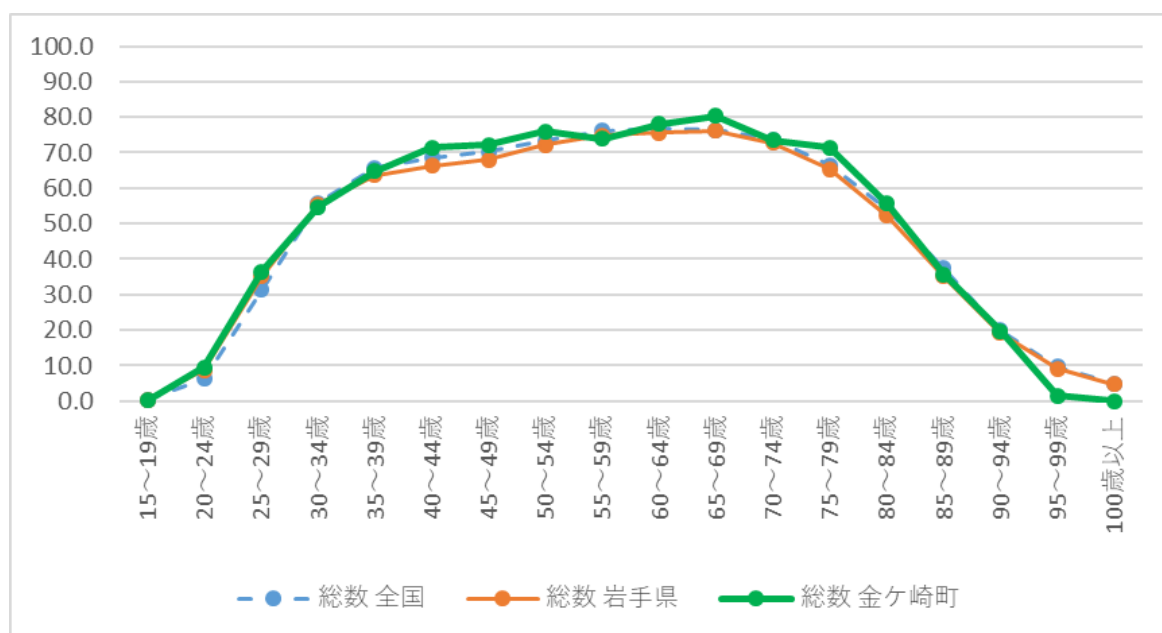
有配偶率は、全国及び岩手県と比べて高くなっていますが、男女別にみると、女性の有配偶率は高く、男性は低くなっています。特に30歳～34歳、55歳～59歳の有配偶率が低くなっています。

表2 有配偶率

(単位：%)

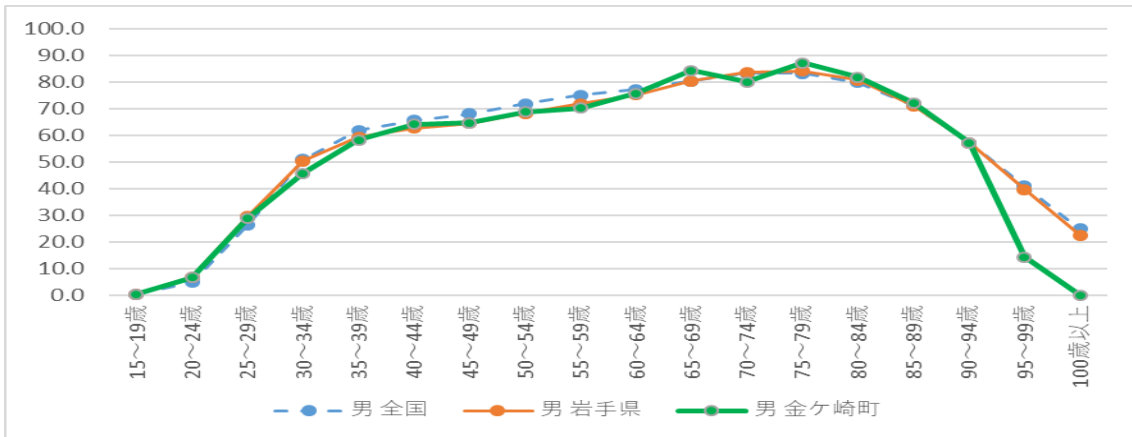
	総数			男			女		
	全国	岩手県	金ヶ崎町	全国	岩手県	金ヶ崎町	全国	岩手県	金ヶ崎町
総数 (15歳以上年齢)	58.5	58.4	59.9	60.9	61.6	60.4	56.3	55.5	59.5
15～19歳	0.4	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2	0.5	0.5	0.3
20～24歳	6.3	8.7	9.5	4.8	6.8	6.5	8.0	10.6	13.3
25～29歳	31.3	35.2	36.5	26.3	29.6	28.9	36.3	41.1	46.0
30～34歳	55.9	55.5	54.8	50.8	50.3	45.6	61.0	60.9	64.9
35～39歳	65.7	63.6	64.8	61.7	59.2	58.2	69.8	68.2	72.1
40～44歳	68.6	66.3	71.5	65.4	62.7	64.0	71.8	70.1	80.9
45～49歳	70.3	68.1	72.2	68.0	64.3	64.7	72.7	71.8	80.7
50～54歳	73.4	72.1	76.0	71.7	68.2	68.7	75.1	76.0	84.2
55～59歳	76.2	74.8	73.8	75.0	71.7	70.2	77.3	77.9	77.7
60～64歳	76.8	75.7	78.1	77.1	75.1	75.6	76.5	76.3	80.7
65～69歳	76.3	76.1	80.3	80.3	80.3	84.2	72.6	72.1	76.4
70～74歳	73.6	72.7	73.5	83.2	83.5	80.0	65.3	63.9	68.0
75～79歳	66.5	65.4	71.4	83.2	84.1	87.0	53.1	52.0	59.5
80～84歳	54.0	52.3	55.7	79.8	80.6	81.8	36.4	34.8	37.6
85～89歳	37.4	35.1	35.7	71.3	71.1	72.2	19.8	17.6	18.3
90～94歳	20.0	19.2	19.7	57.1	57.2	57.1	7.7	7.3	7.2
95～99歳	9.7	9.1	1.5	40.9	39.6	14.3	2.9	2.4	0.0
100歳以上	5.0	4.8	0.0	24.7	22.4	0.0	1.8	1.6	0.0

出典：国勢調査 (2015)



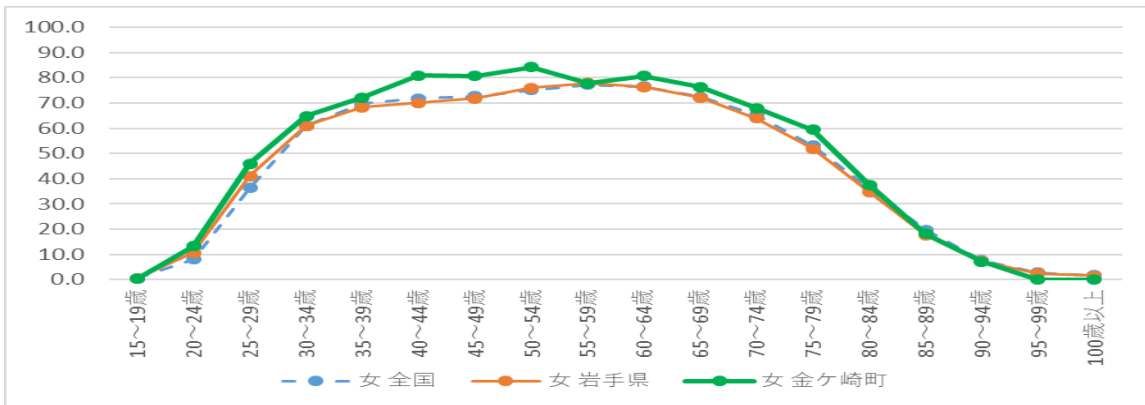
出典：国勢調査

図1.3 有配偶率 (男女計)



出典：国勢調査

図14 有配偶率（男性）



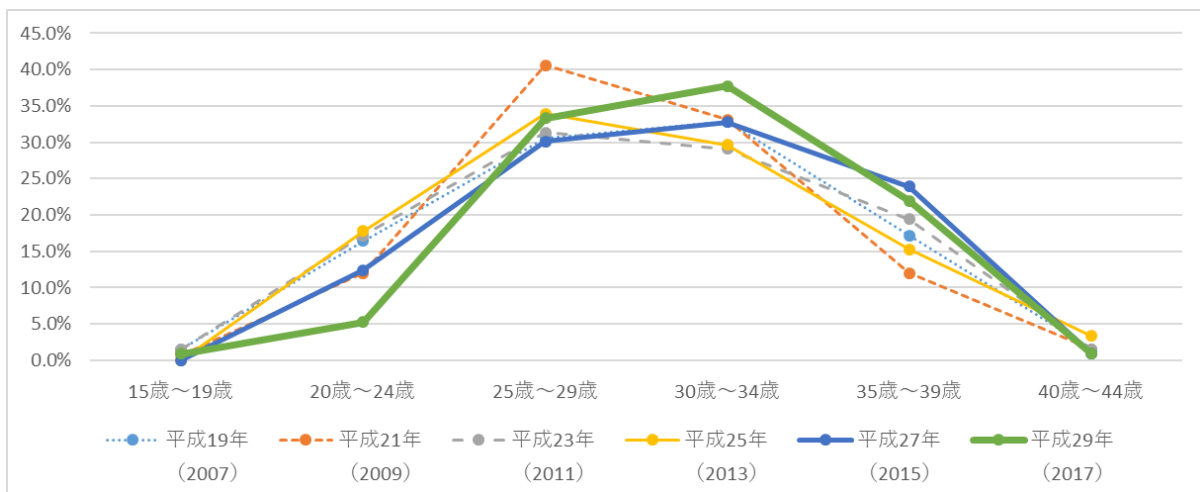
出典：国勢調査

図15 有配偶率（女性）

（6）母の年齢別出生数割合

平成29年（2017年）の母の年齢別出生数割合は、「30～34歳」が最も多く、次いで「25～29歳」が多くなっています。

平成21年（2009年）と比べると、「20～29歳」の出生数割合が減少「30～39歳」が増加傾向にあります。

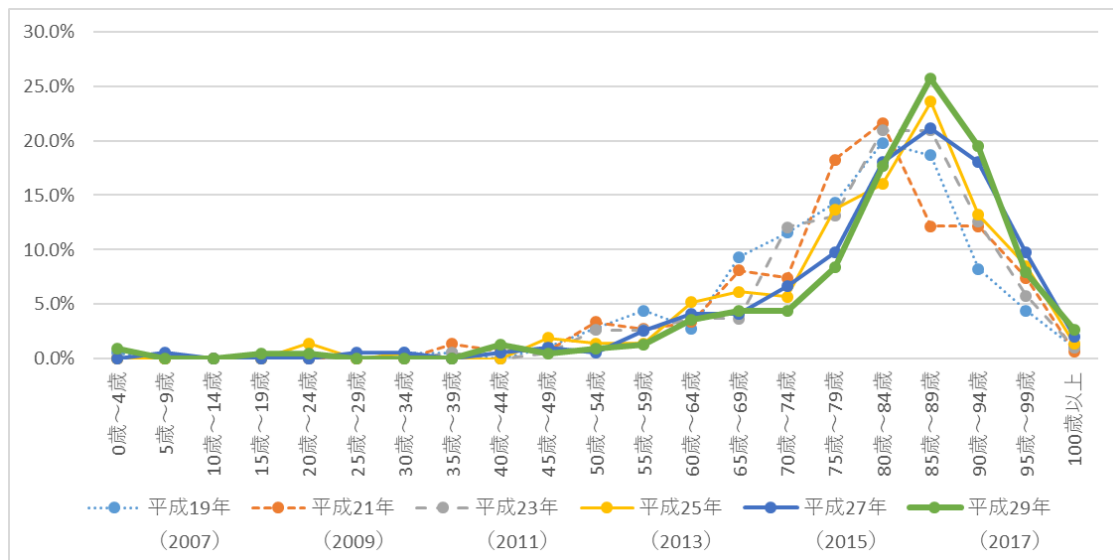


出典：岩手県保健福祉年報（人口動態編）

図16 母の年齢別出生数割合

(7) 年齢（5歳階級）別死亡者数割合

年齢5歳階級の死亡者数は、「85～89歳」の死亡者が多くなっています。

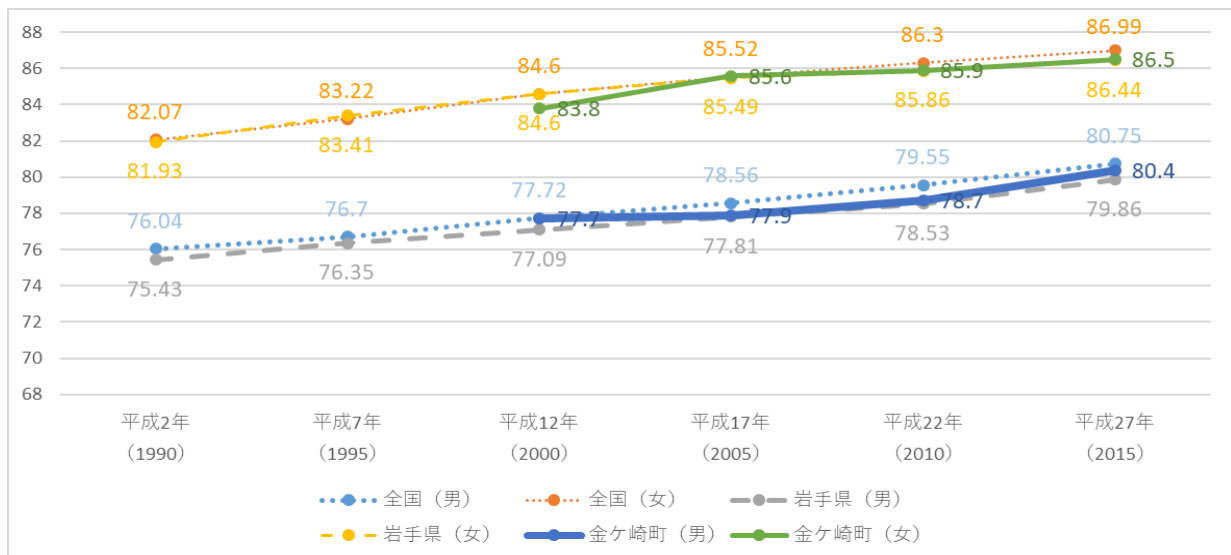


出典：岩手県保健福祉年報
(人口動態編)

図17 年齢別死亡者数割合

(8) 平均寿命

平成2年（1990年）から平成27年（2015年）の平均寿命を見ると、全国、岩手県、金ケ崎町とも上昇していますが、全国と比べると、男女ともに平均寿命は短くなっています。

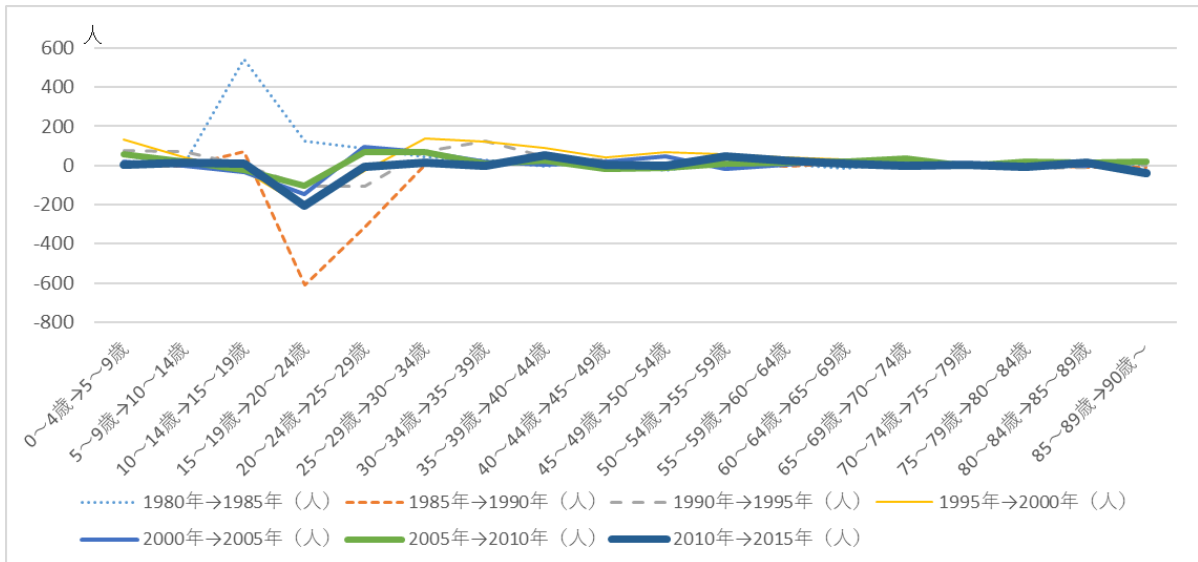


出典：岩手県環境保健研究センター「人口動態統計データ」

図18 平均寿命の推移

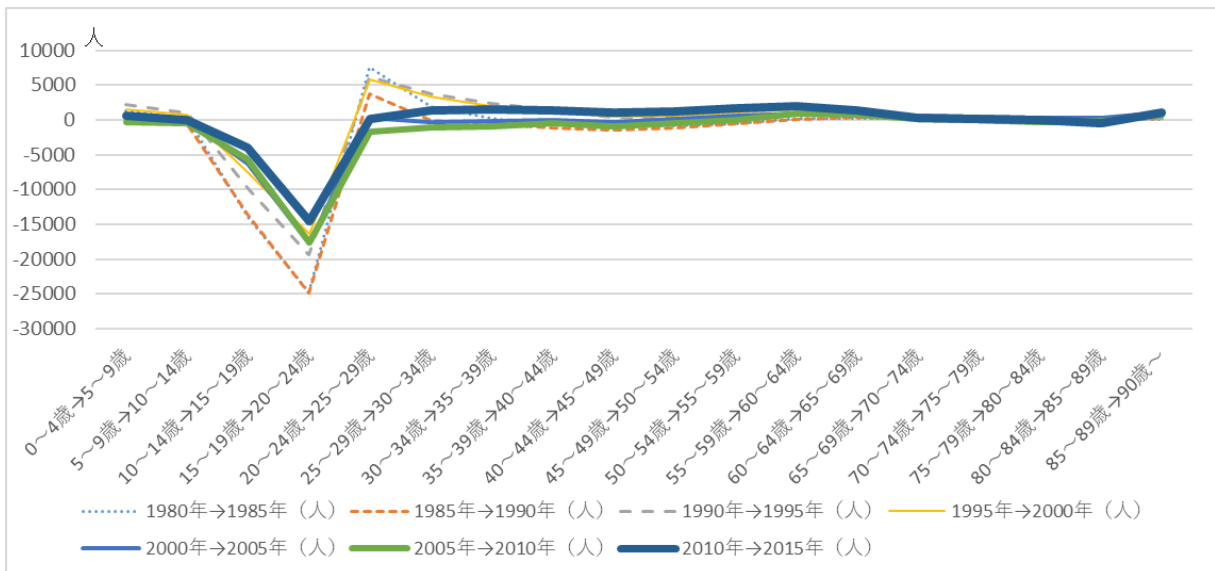
(9) 年齢階級別純移動数

昭和55年(1980年)から昭和60年(1985年)にかけて「10~14歳⇒15~19歳」の転入超過が見られます。その後は、「15~19歳⇒20~24歳」の転出超過が男女ともに大きくなっていますが、「20~24歳⇒25歳~29歳」「25歳~29歳⇒30歳~34歳」「30歳~34歳⇒35歳~39歳」では転入超過の傾向がみられます。



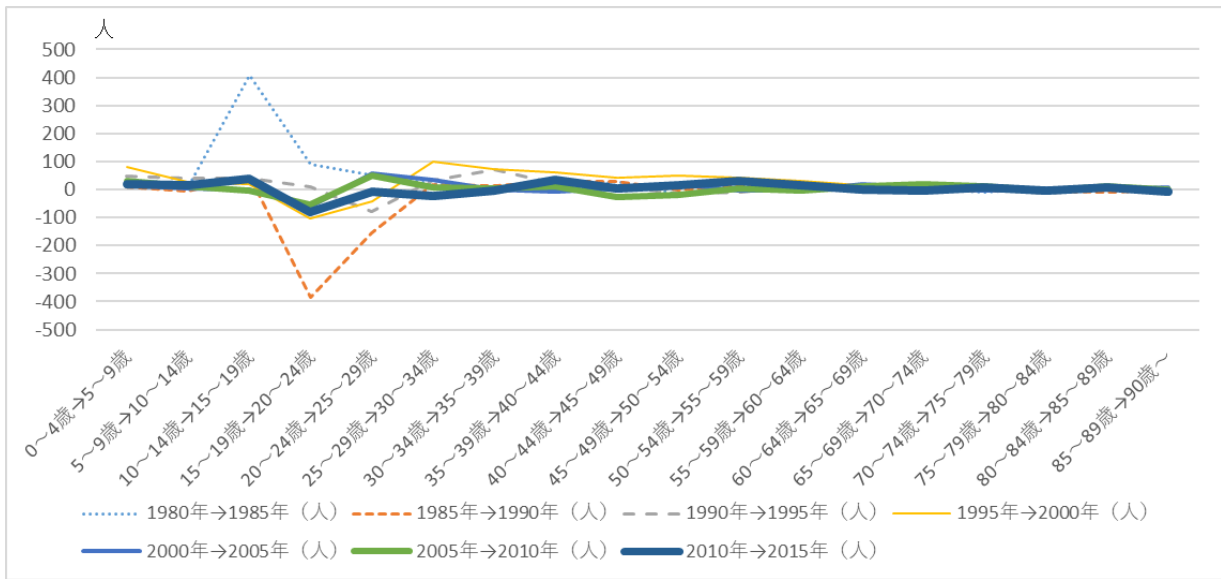
出典：総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づき、内閣府まち・ひと・しごと創生本部作成

図19 年齢階級別純移動数(金ヶ崎町)



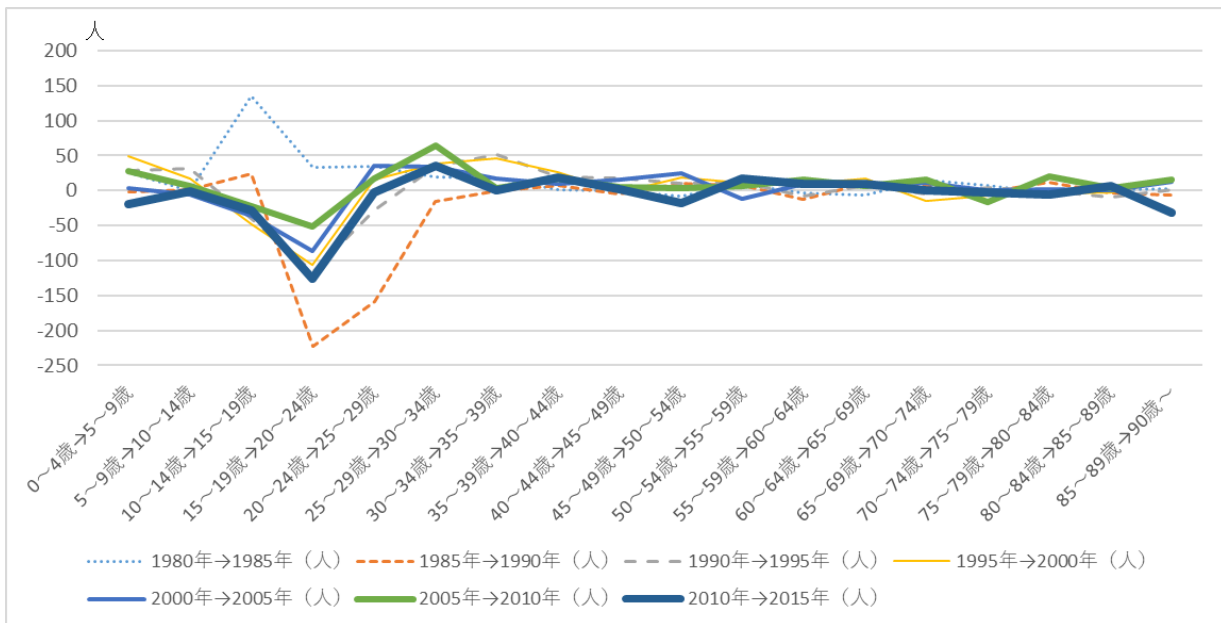
出典：総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づき、内閣府まち・ひと・しごと創生本部作成

図20 年齢階級別純移動数(岩手県)



出典：総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づき、内閣府まち・ひと・しごと創生本部作成

図 2 1 年齢階級別人口移動の推移（金ヶ崎町男性）



出典：総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づき、内閣府まち・ひと・しごと創生本部作成

図 2 2 年齢階級別人口移動の推移（金ヶ崎町女性）

3 社会動態の状況

(1) 金ケ崎町の状況

当町の社会動態は、全国的な製造業の動向やグローバルな経済動向の影響を受け、社会増減を繰り返しています。平成26年（2014年）から社会減が続いていましたが、令和元年（2019年）には社会増へと転じ、41人の社会増となっています。

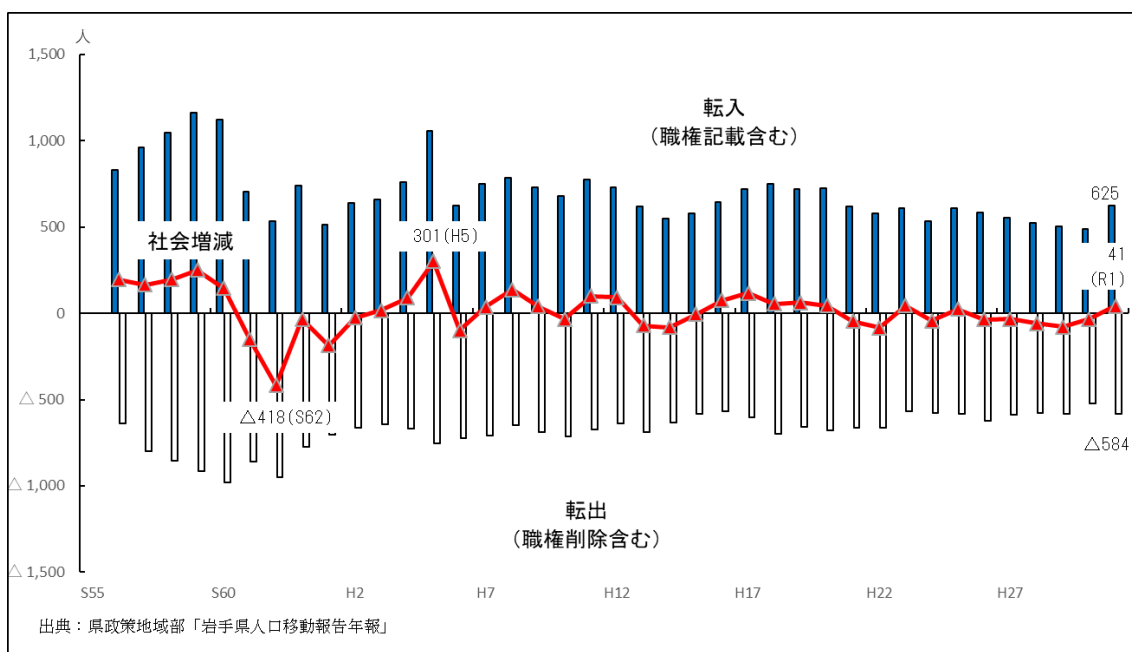


図2-3 社会動態（金ケ崎町）

(2) 岩手県の状況

岩手県では、昭和55年以降常に社会減の状況にあります。

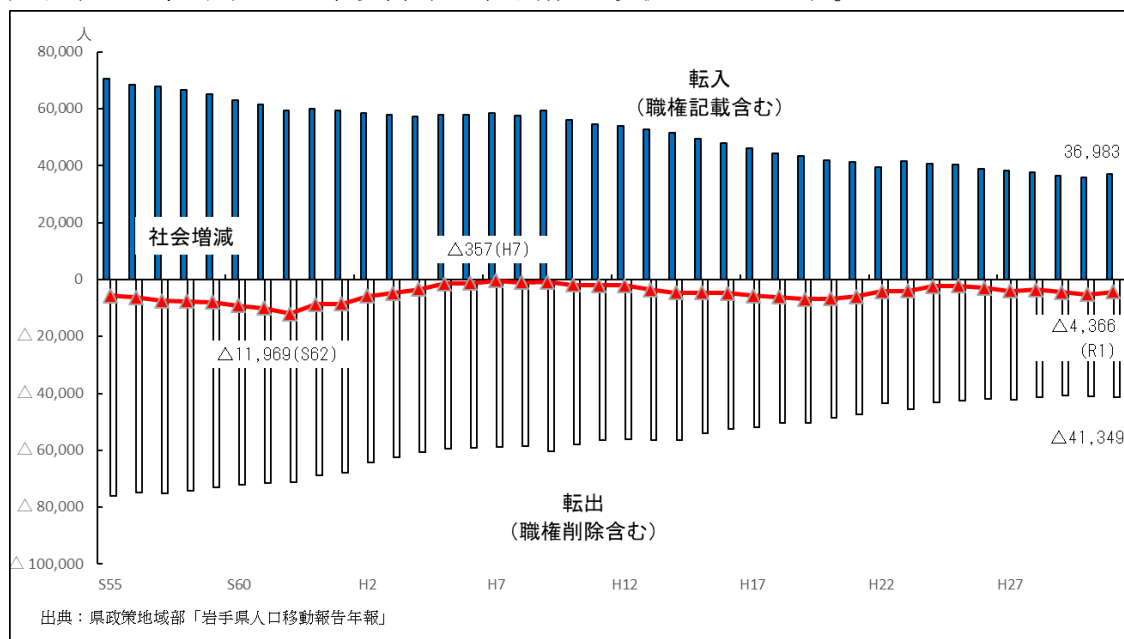


図2-4 社会動態（岩手県）

4 人口性比の状況

「女性人口を100としたときの男性人口の割合」（以下「人口性比」といいます。）を見ると、県全体が93.1であるのに対し、当町は106.9と100を超えており、普代村とともに女性より男性が多い自治体となっています。

特に15～64歳の人口性比が124.6と県全体に比べて約20ポイントも高くなっています。

これは、製造業を主要産業とする当町の特徴によるものと考えられますが、未婚率の状況にも影響してくるものと思われます。

表3 人口性比（令和元年10月1日現在）

	総数	0～14歳	15～64歳	65歳以上
岩手県	93.1	104.8	104.3	73.1
金ヶ崎町	106.9	115.6	124.6	77.4
普代村	103.9	125.5	130.0	76.6
北上市	99.3	107.5	112.0	72.1
田野畑村	98.9	100.6	112.5	84.7
釜石市	97.6	100.9	119.8	72.7
宮古市	97.3	105.0	115.2	73.9
陸前高田市	97.0	107.1	113.6	75.5
大槌町	96.5	106.9	111.6	76.3
山田町	96.0	109.9	112.0	75.4
滝沢市	96.0	102.0	101.8	79.6

出典：岩手県人口移動報告年報

5 昼夜間人口比率の状況

夜間人口を100としたときの昼間人口の比率である昼夜間人口比率を見ると、当町は115.8と5年前よりも高くなっています。

また、釜石市や盛岡市と比べても約8ポイント～10ポイント上回って県内第1位となっています。

表4 昼夜間人口比率

	H27	H22	H27-H22
岩手県	99.8	99.7	0.07
金ヶ崎町	115.8	114.6	1.21
釜石市	107.5	104.9	2.55
盛岡市	105.7	106.4	-0.64
矢巾町	104.0	101.2	2.80
北上市	103.9	104.2	-0.36
大船渡市	103.8	103.0	0.76
宮古市	102.6	101.6	1.00
二戸市	102.2	102.2	0.04
岩泉町	102.0	101.4	0.66
久慈市	101.2	101.5	-0.33

出典：国勢調査

6 通勤・通学状況

当町の就業者・通学者の状況を見ると、流入が6,485人、流出が4,032人で2,453人の純流入となっています。

男女別にみると、男性が2,593人の純流入であるのに対し、女性は140人の流出となっています。

主要市との状況を見ると、奥州市からは男女とも純流入となっておりますが、北上市とは、男性は840人の純流入となっているのに対し、女性は122人の流出となっています。

表5 就業者及び通学者の状況

<就業者及び通学者>

(単位：人)

	男女計			男			女		
	流入	流出	純入	流入	流出	純入	流入	流出	純入
合計	6,485	4,032	2,453	4,798	2,205	2,593	1,687	1,827	△ 140
奥州市	3,479	2,010	1,469	2,385	1,030	1,355	1,094	980	114
北上市	2,166	1,448	718	1,652	812	840	514	636	△ 122
花巻市	341	122	219	300	77	223	41	45	△ 4
一関市	165	122	43	152	82	70	13	40	△ 27
盛岡市	93	114	△ 21	81	66	15	12	48	△ 36

出典：国勢調査（2015）

7 生活圏別人口推移

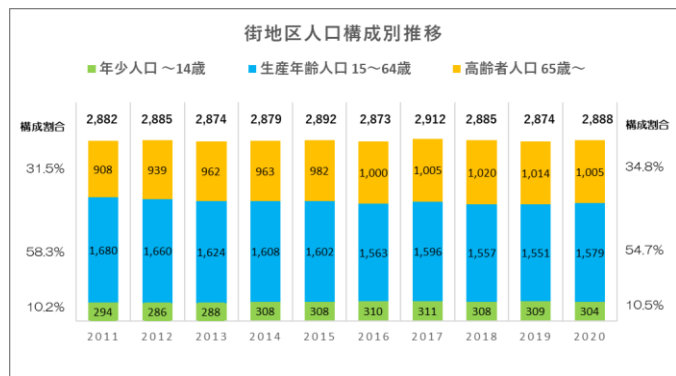
6生活圏毎（街、三ヶ尻、南方、西部、永岡、北部）の過去10年間の人口推移は次のとおりです。

なお、国勢調査では生活圏毎の人口が公表されていないことから、住民基本台帳に基づく人口データとなっています。

（※注）住民基本台帳は、住所変更手続きを行った場合に反映されるものであり、住所変更をせずに転入、転出した場合は反映されていない。

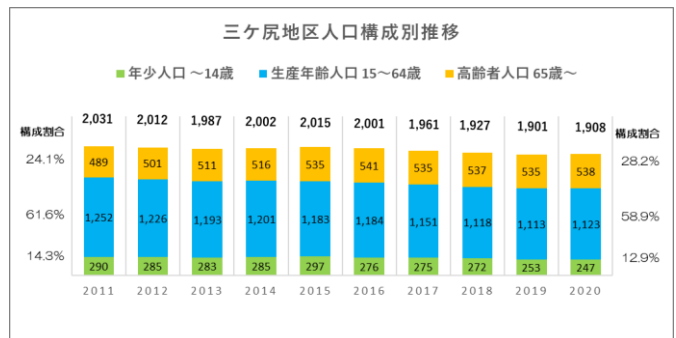
<街地区>

年 (3.31)		総人口	年少人口 ～14歳	生産年齢人口		高齢者人口 65歳～
西暦	和暦			15～64歳	65歳～	
2011	H23	2,882	294	1,680	908	
2012	H24	2,885	286	1,660	939	
2013	H25	2,874	288	1,624	962	
2014	H26	2,879	308	1,608	963	
2015	H27	2,892	308	1,602	982	
2016	H28	2,873	310	1,563	1,000	
2017	H29	2,912	311	1,596	1,005	
2018	H30	2,885	308	1,557	1,020	
2019	H31	2,874	309	1,551	1,014	
2020	R2	2,888	304	1,579	1,005	



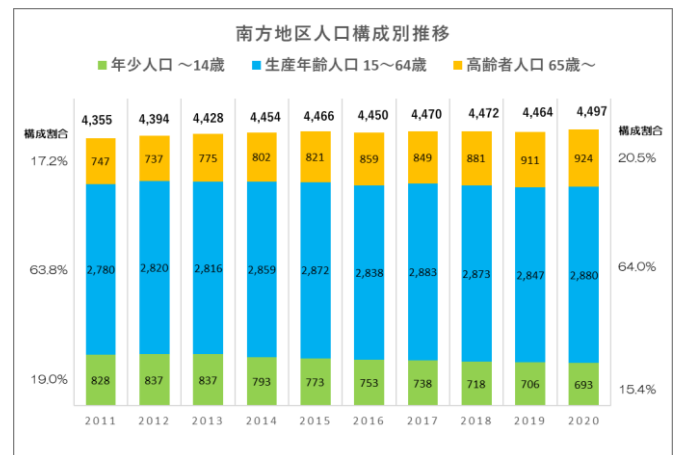
<三ヶ尻地区>

年 (3.31)		総人口	年少人口 ～14歳	生産年齢人口		高齢者人口 65歳～
西暦	和暦			15～64歳	65歳～	
2011	H23	2,031	290	1,252	489	
2012	H24	2,012	285	1,226	501	
2013	H25	1,987	283	1,193	511	
2014	H26	2,002	285	1,201	516	
2015	H27	2,015	297	1,183	535	
2016	H28	2,001	276	1,184	541	
2017	H29	1,961	275	1,151	535	
2018	H30	1,927	272	1,118	537	
2019	H31	1,901	253	1,113	535	
2020	R2	1,908	247	1,123	538	



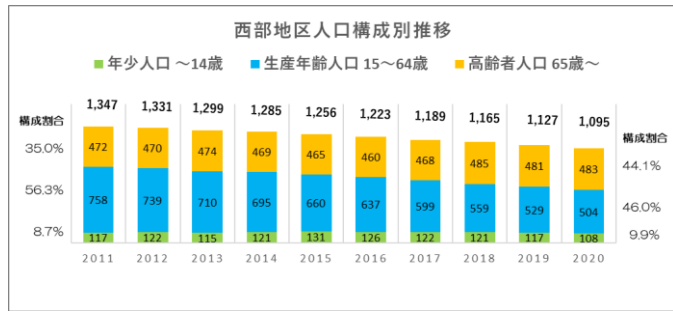
<南方地区>

年 (3.31)		総人口	年少人口 ～14歳	生産年齢人口		高齢者人口 65歳～
西暦	和暦			15～64歳	65歳～	
2011	H23	4,355	828	2,780	747	
2012	H24	4,394	837	2,820	737	
2013	H25	4,428	837	2,816	775	
2014	H26	4,454	793	2,859	802	
2015	H27	4,466	773	2,872	821	
2016	H28	4,450	753	2,838	859	
2017	H29	4,470	738	2,883	849	
2018	H30	4,472	718	2,873	881	
2019	H31	4,464	706	2,847	911	
2020	R2	4,497	693	2,880	924	



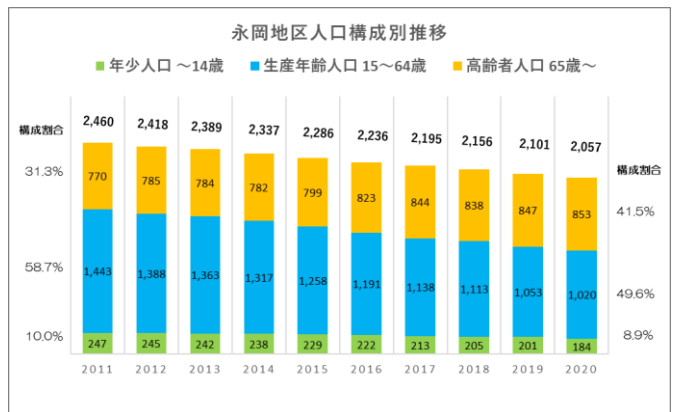
<西部地区>

年 (3.31)	総人口	年少人口 ~14歳	生産年齢人口 15~64歳	高齢者人口 65歳~
西暦 和暦				
2011 H23	1,347	117	758	472
2012 H24	1,331	122	739	470
2013 H25	1,299	115	710	474
2014 H26	1,285	121	695	469
2015 H27	1,256	131	660	465
2016 H28	1,223	126	637	460
2017 H29	1,189	122	599	468
2018 H30	1,165	121	559	485
2019 H31	1,127	117	529	481
2020 R2	1,095	108	504	483



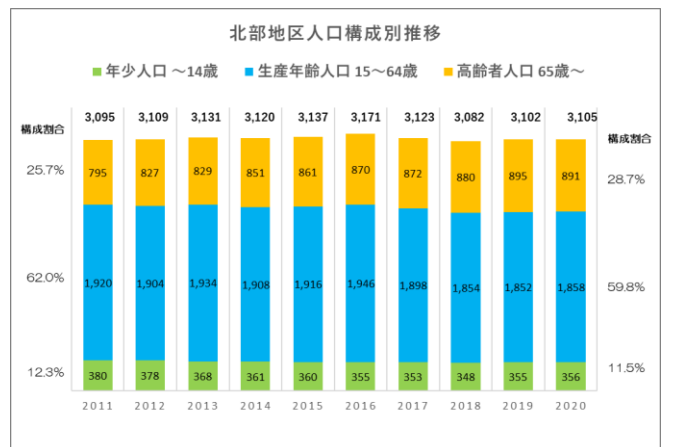
<永岡地区>

年 (3.31)	総人口	年少人口 ~14歳	生産年齢人口 15~64歳	高齢者人口 65歳~
西暦 和暦				
2011 H23	2,460	247	1,443	770
2012 H24	2,418	245	1,388	785
2013 H25	2,389	242	1,363	784
2014 H26	2,337	238	1,317	782
2015 H27	2,286	229	1,258	799
2016 H28	2,236	222	1,191	823
2017 H29	2,195	213	1,138	844
2018 H30	2,156	205	1,113	838
2019 H31	2,101	201	1,053	847
2020 R2	2,057	184	1,020	853



<北部地区>

年 (3.31)	総人口	年少人口 ~14歳	生産年齢人口 15~64歳	高齢者人口 65歳~
西暦 和暦				
2011 H23	3,095	380	1,920	795
2012 H24	3,109	378	1,904	827
2013 H25	3,131	368	1,934	829
2014 H26	3,120	361	1,908	851
2015 H27	3,137	360	1,916	861
2016 H28	3,171	355	1,946	870
2017 H29	3,123	353	1,898	872
2018 H30	3,082	348	1,854	880
2019 H31	3,102	355	1,852	895
2020 R2	3,105	356	1,858	891

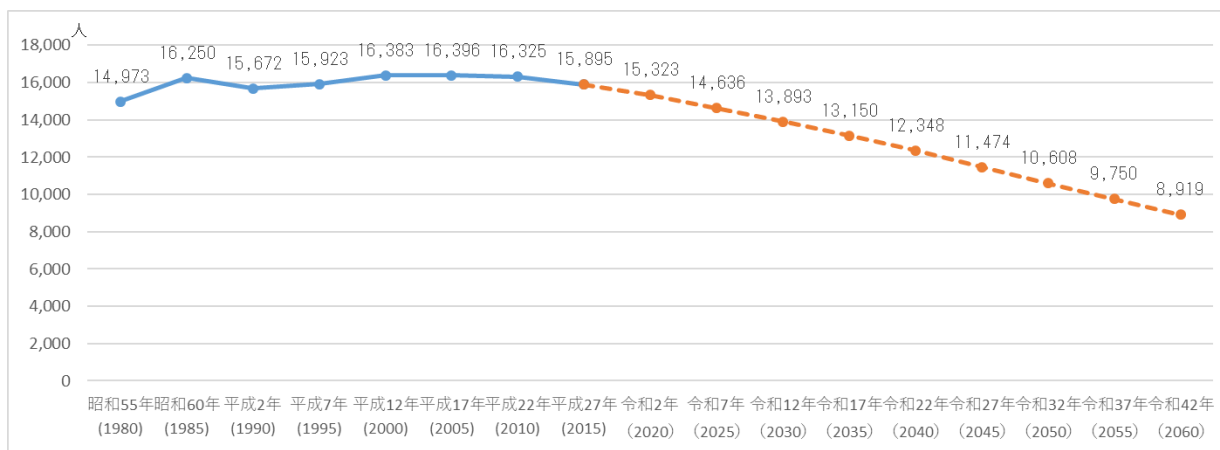


Ⅱ 人口の将来展望

1 将来人口

(1) 総人口の推移及び推計

国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」という。)による人口推計では、今後人口減少が続き、令和27年(2045年)には、平成27年(2015年)から約27.8%減の11,474人になると見込まれています。

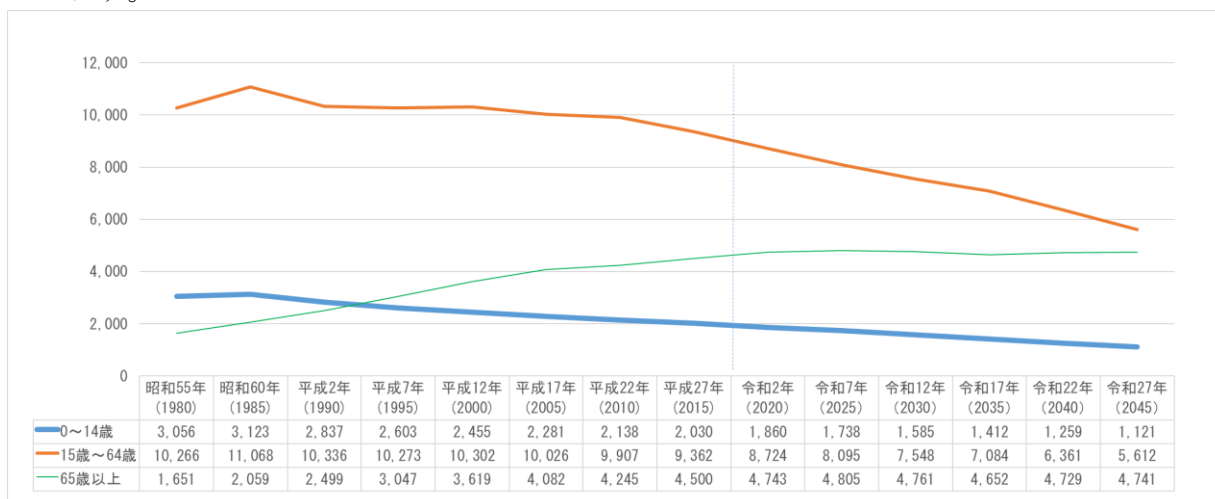


出典：国勢調査(昭和55年～平成27年)
 国立社会保障・人口問題研究所(令和2年～令和42年)

図25 将来人口見通し

(2) 年齢3区分別人口の推移及び推計

年少人口(0～14歳)及び生産年齢人口(15歳～64歳)は減少傾向が続く一方で、老年人口(65歳以上)は増加傾向で、令和27年(2045年)には、4,741人と全人口の約41.3%程度まで増加することが見込まれています。

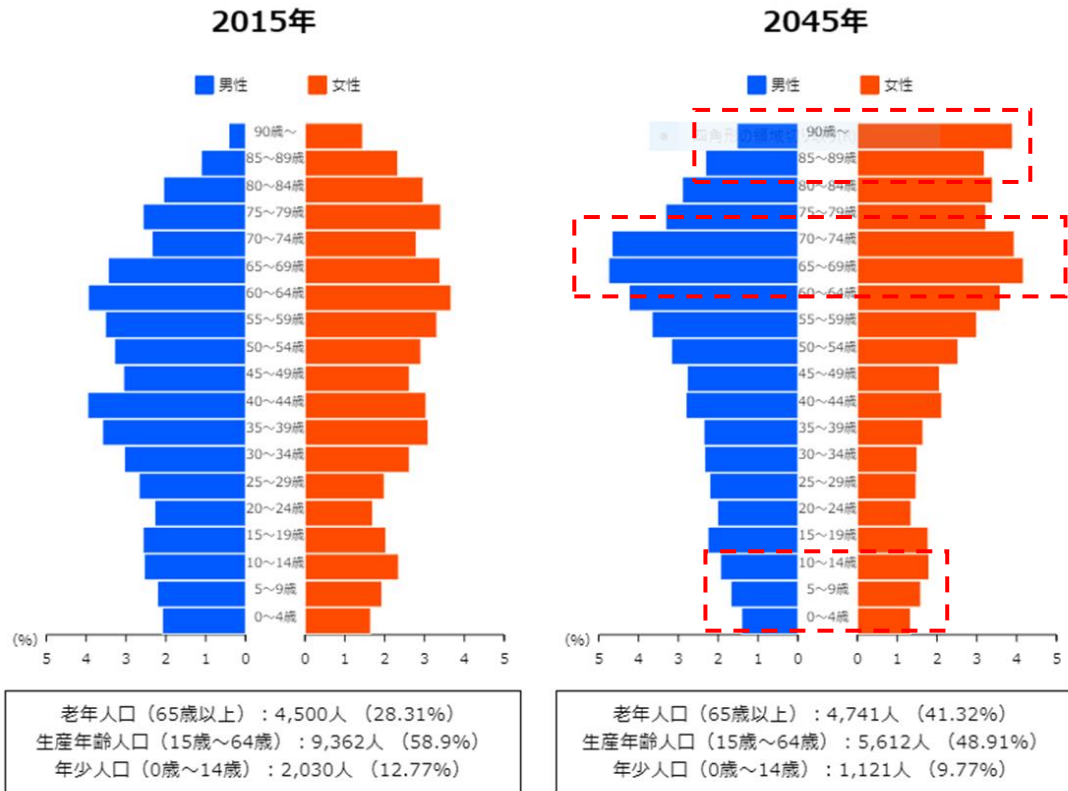


出典：国勢調査(昭和55年～平成27年)
 国立社会保障・人口問題研究所(令和2年～令和27年)

図26 年齢3区分別人口推移

(3) 人口ピラミッドの推移

男女別5歳階級別で見ると、令和27年（2045年）には65歳以上の老年人口が占める割合が増加し、特に65～74歳及び85歳以上が占める割合が増加します。その一方で、0～14歳の年少人口が占める割合は減少します。



出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

2 将来人口のケース別推計結果

目標人口を定めるにあたり、社人研による推計を勘案しつつ、独自の条件を設定した推計を行います。

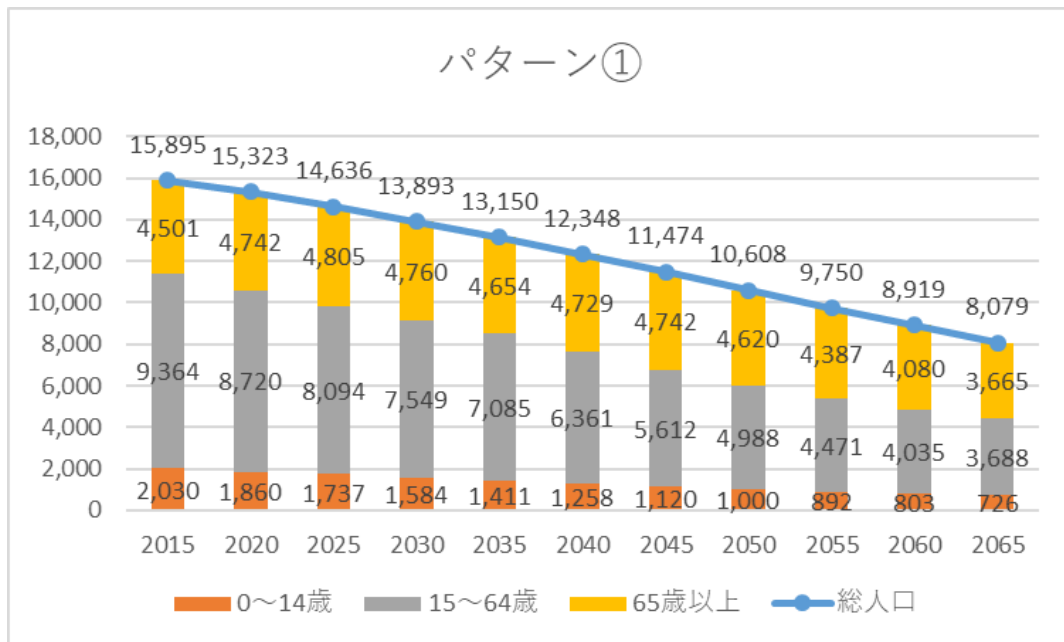
(1) 将来人口推計の条件

将来人口推計の基準年は、平成27年（2015年）とします。

将来人口の推計に必要な条件のうち、「出生率」及び「移動数」を独自に設定し、推計を行います。

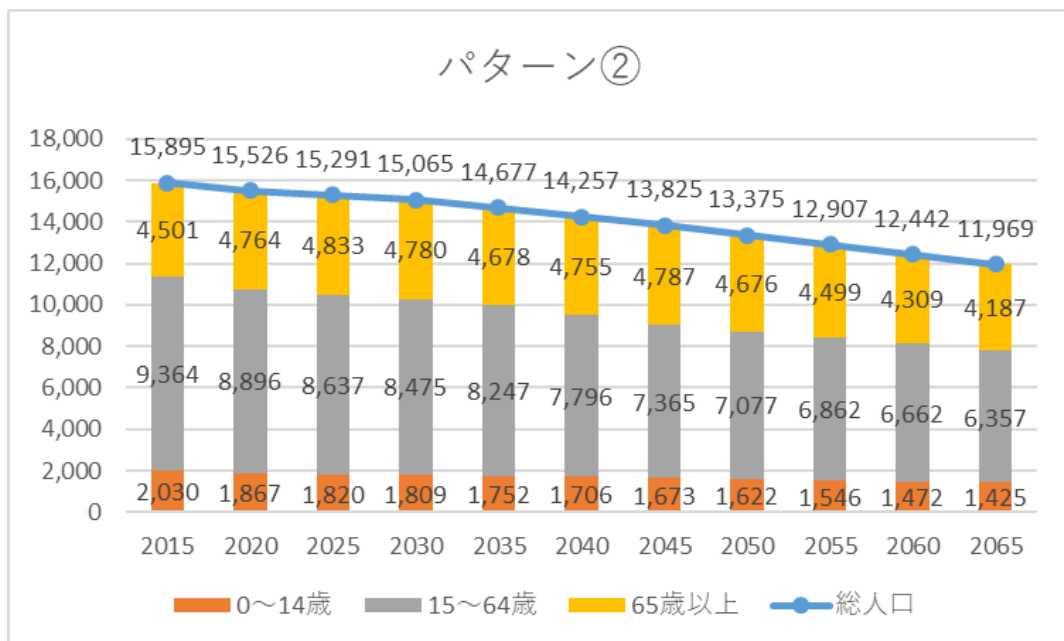
① パターン①

社人研の推計に準拠した推計を行います。



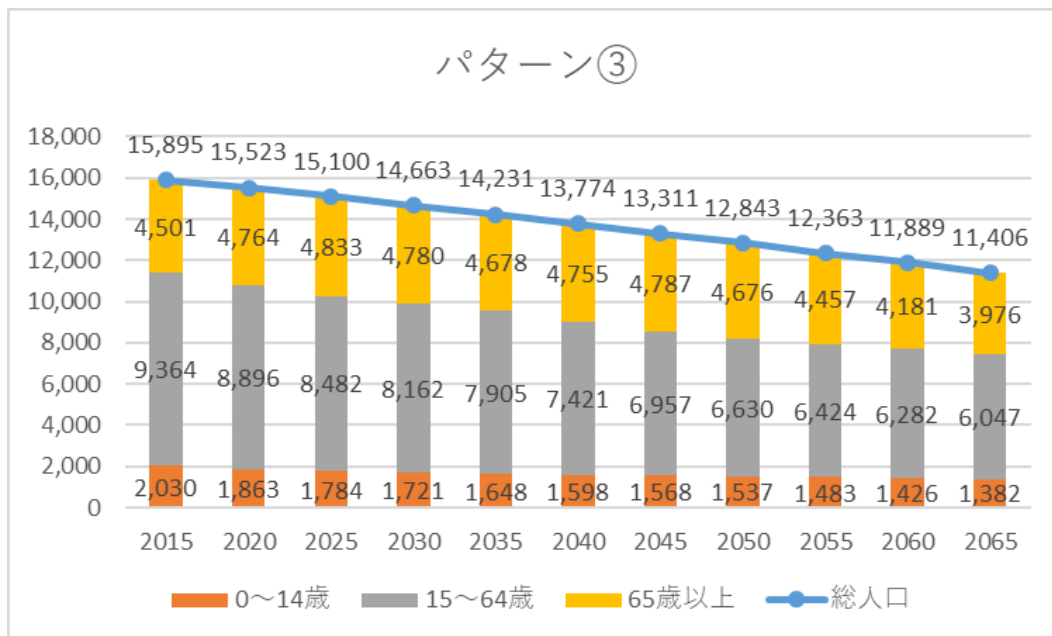
② パターン②

出生率を社人研推計に準拠する一方で、社人研推計に準拠する純移動率に加えて、企業進出等の動きを踏まえて、令和12年（2030年）まで+35人/年の移動を見込んで推計を行います。



③ パターン③

令和2年（2020年）の出生率を平成20年（2008年）から平成29年（2017年）までの平均値1.63とし、その後5年間で0.01上昇し、令和7年（2025年）に1.64、令和12年（2030年）に1.65、その後は10年間で0.01ずつ上昇すると見込んで推計を行います。



④ パターン④

パターン③と同様、令和2年（2020年）の出生率を1.63とし、令和12年（2030年）まで5年間で0.01上昇。その後は10年間で0.01上昇すると見込みます。

また、社人研推計に準拠する純移動率に加えて、企業進出等の動きを踏まえて、令和12年（2030年）まで+35人/年の移動を見込んで推計を行います。

